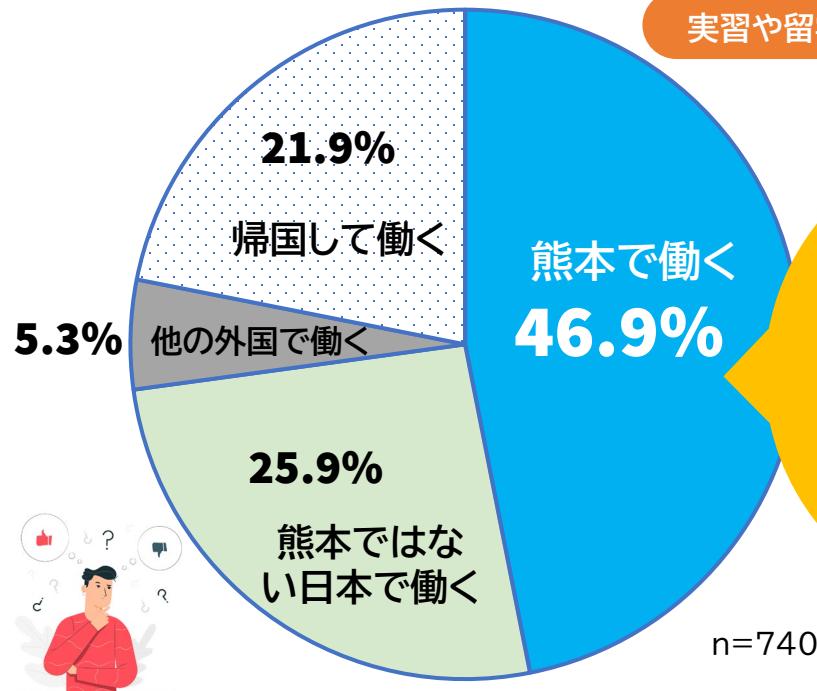


熊本での就業継続意向

実習や留学後の予定(留学意向除く)



熊本で働きたいという人は47%。決して高いとは言えない水準。

給与が増える職場と増えない職場での熊本で働く意向を持つ人の割合

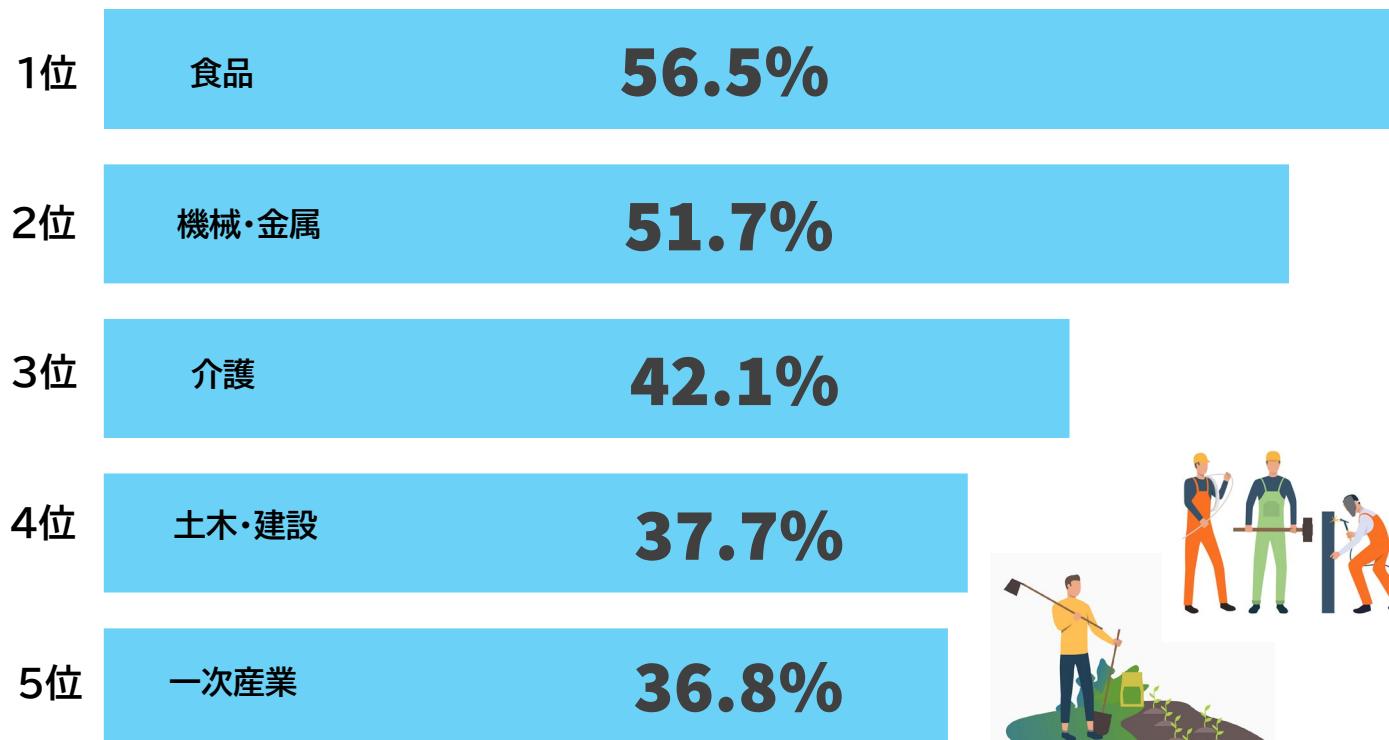
給与が増えない職場では **34.0%**

給与が増える職場では **57.5%**

日本語能力や技能資格取得にあわせて、給与が増える職場で働く人ほど、熊本での就業継続意向が強くなる。

n=322

業種別にみた就業継続意向



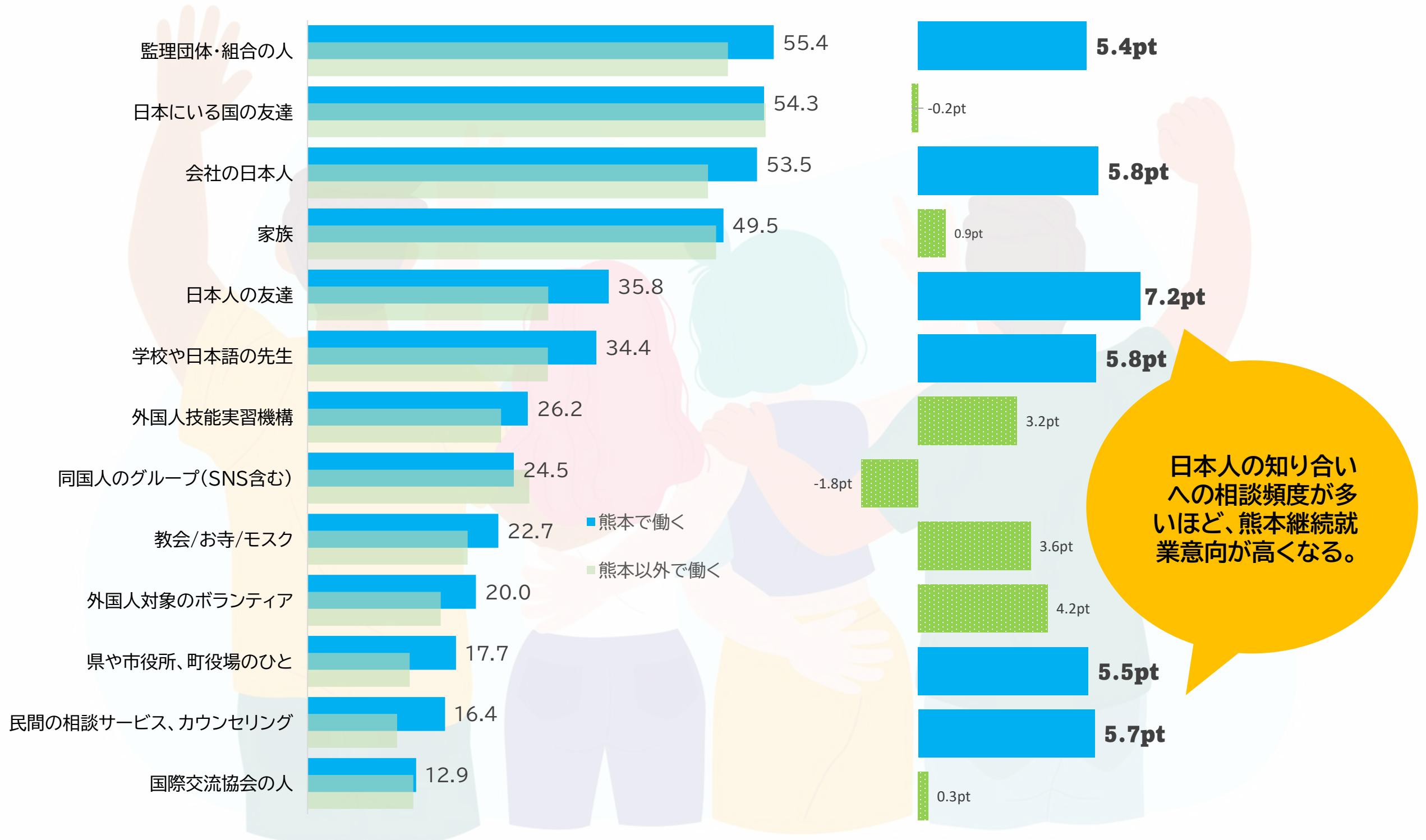
製造業で働く人ほど、熊本での就業継続意向のある人が多く、一次産業は少ない。

n=732

熊本での就業継続意向と相談先の関係

「熊本で働く」とする人と「熊本以外で働く」という人の相談頻度スコア

差(熊本で働く人－熊本以外で働く人)

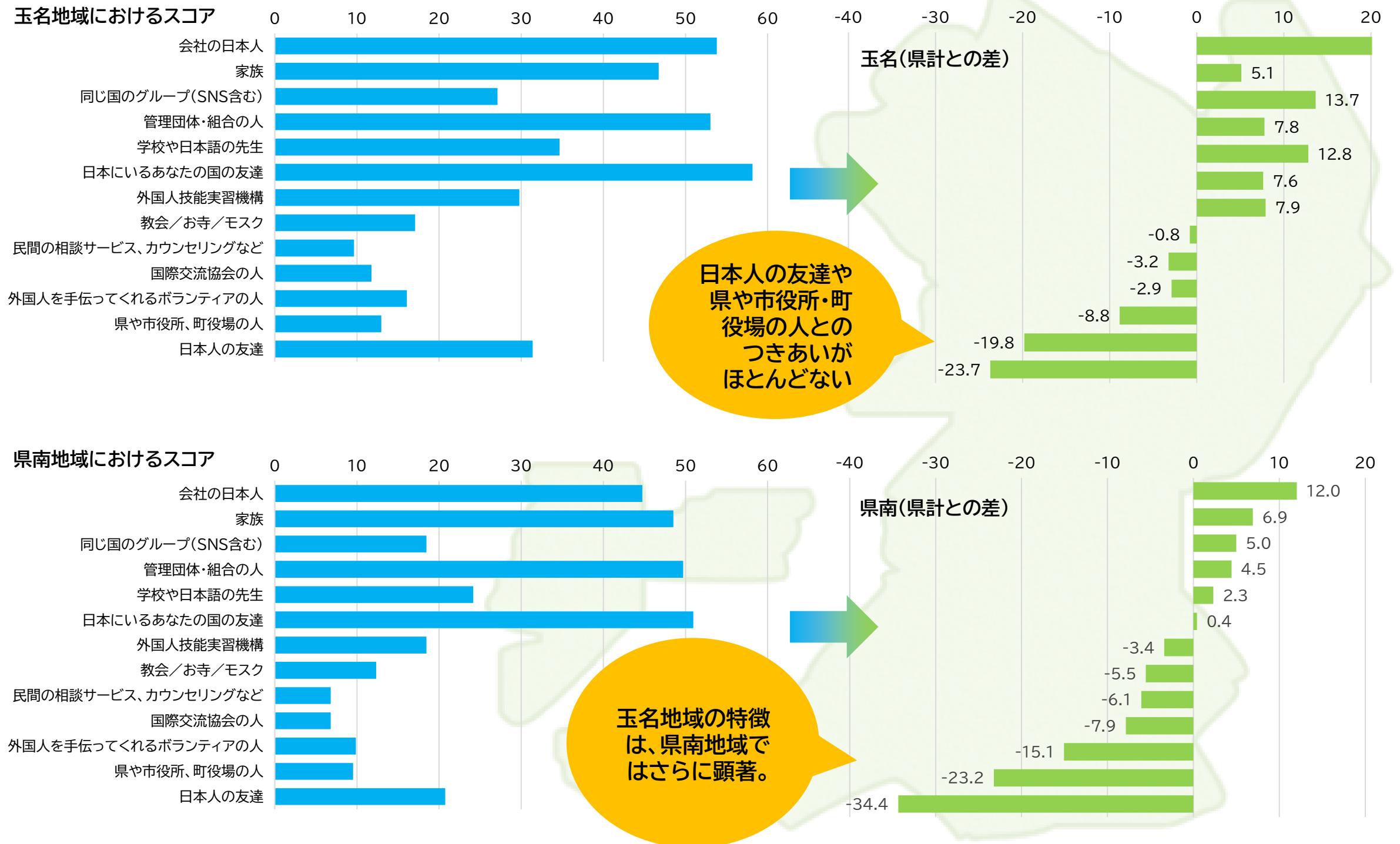


注) グラフの値は、「よく相談する」を100点、「ときどき相談する」を50点、「全然相談しない」を0点として、それぞれの回答率により加重平均した点数

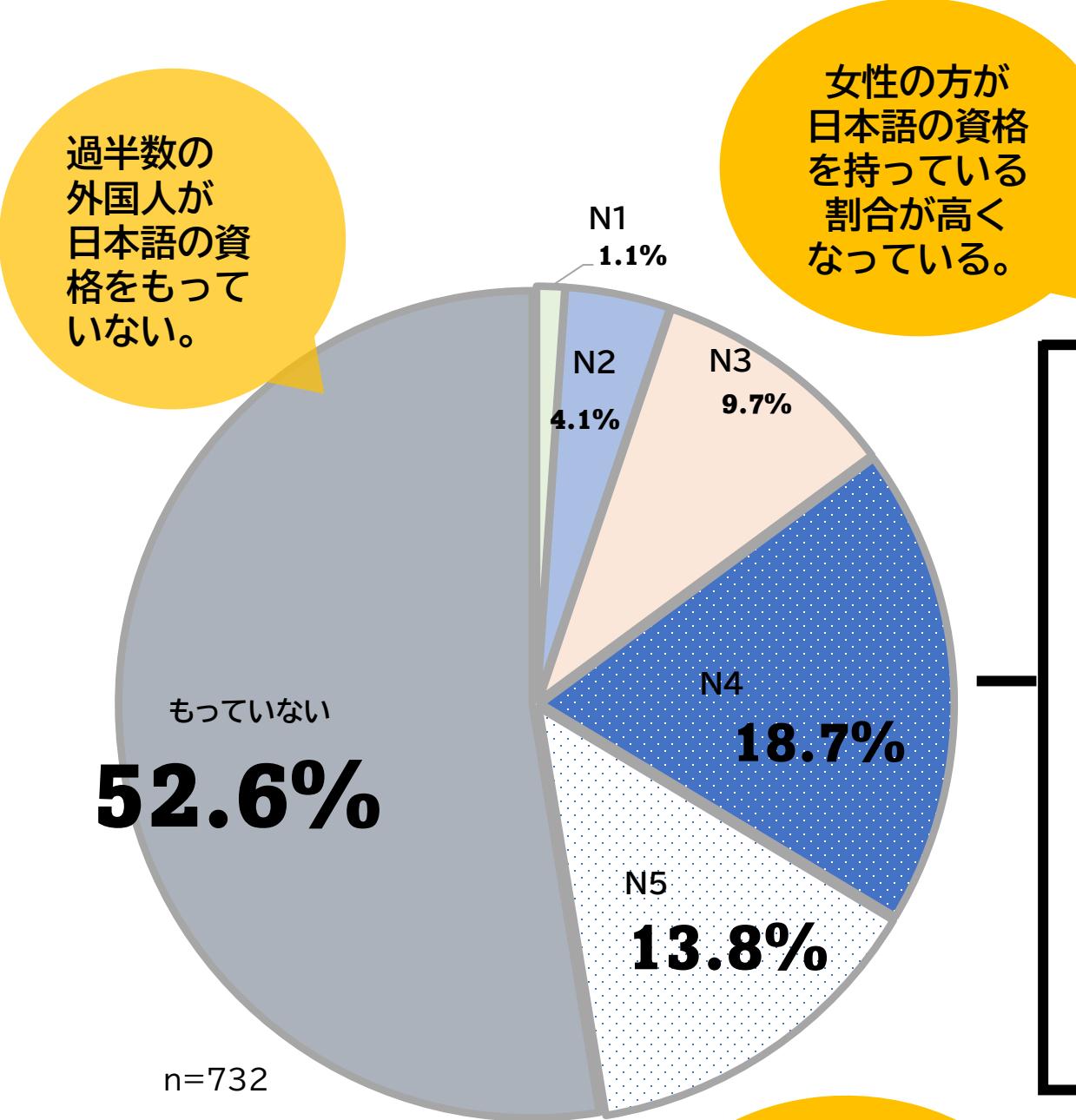
県南地域と玉名(県北)地域の相談先

県南と玉名の「困ったときの相談先」に対する回答比較

県南地域と玉名地域は、農業に従事する外国人材が多いという点で共通しています。



外国人材の日本語能力

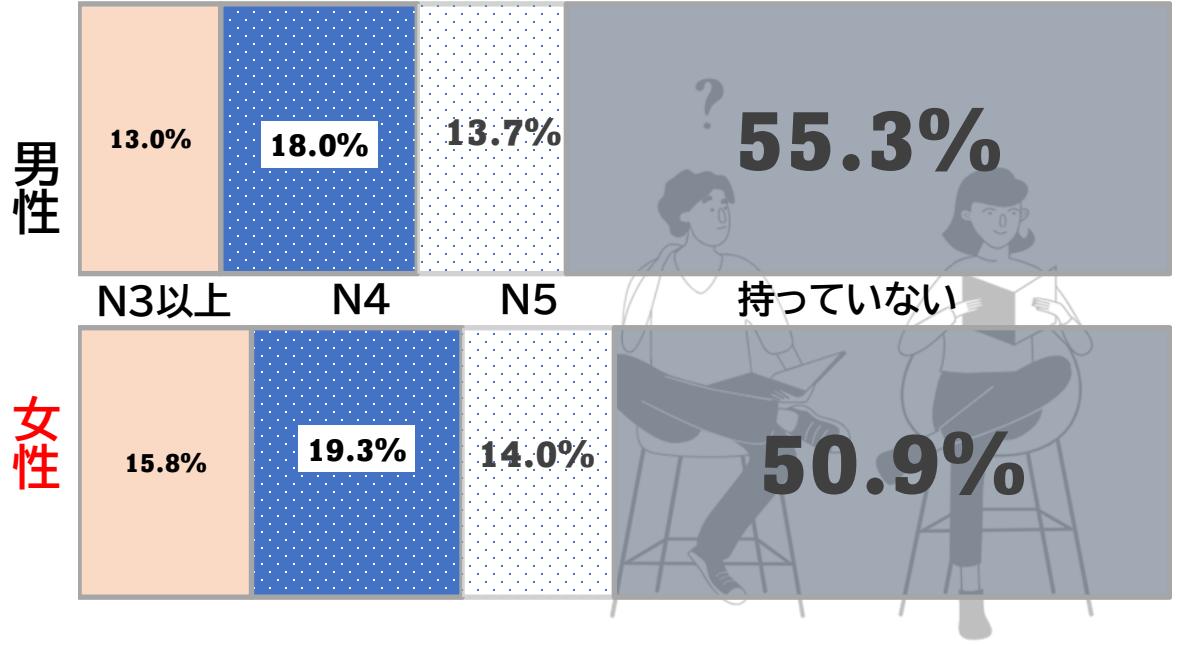


過半数の外国人が日本語の資格をもっていない。

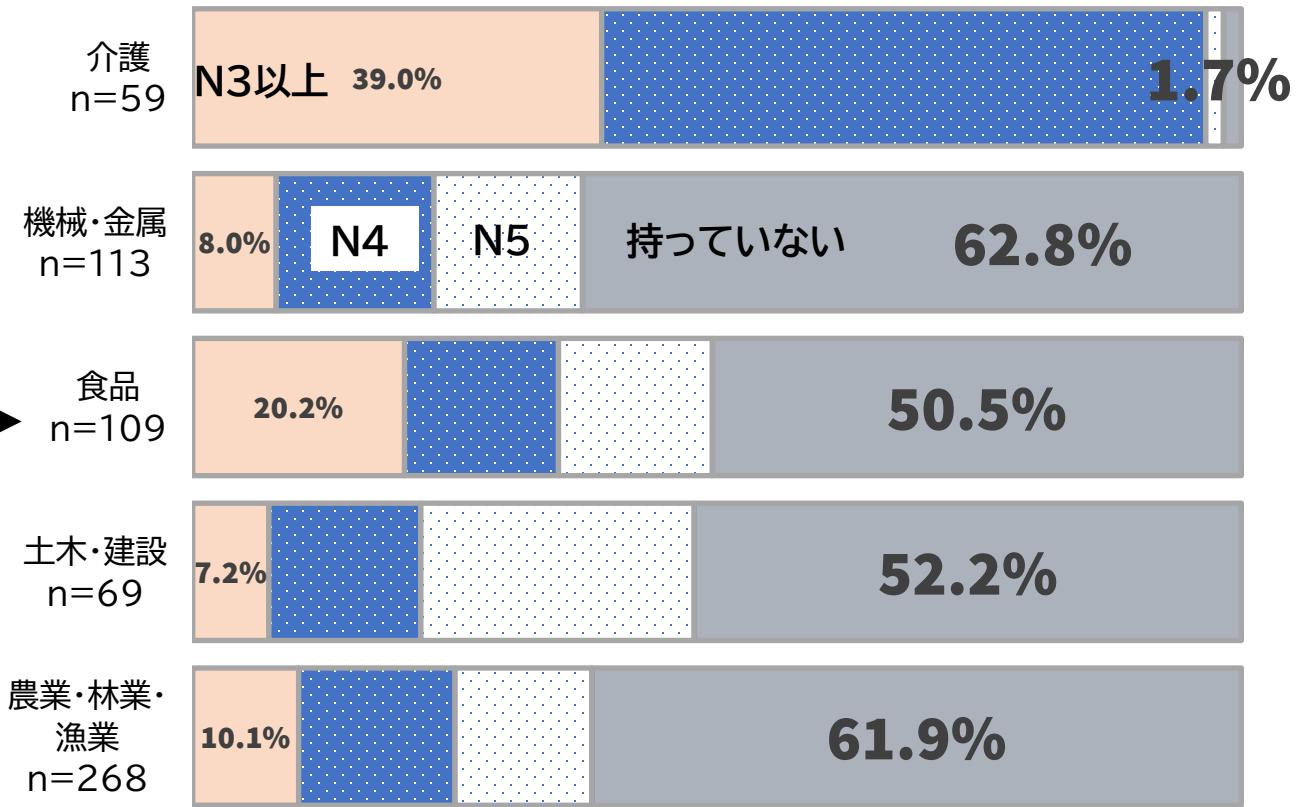
女性の方が日本語の資格を持っている割合が高くなっている。

介護職以外は過半数の人が日本語の資格をもっていない。

男女別日本語能力



職種別日本語能力

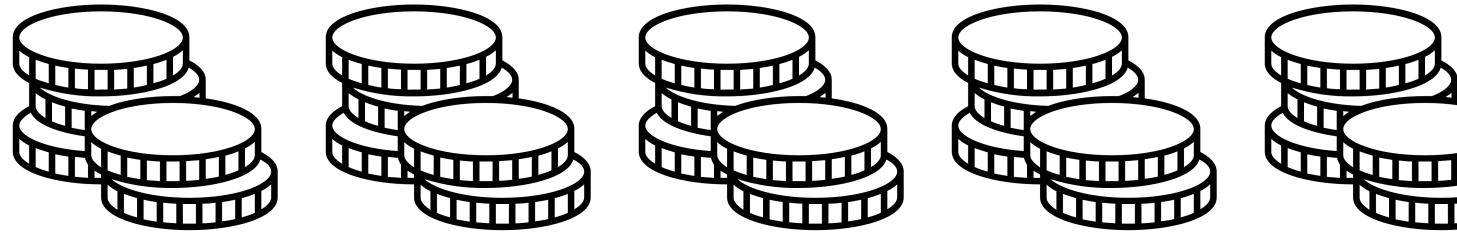


日本語学習の課題について

724名からの回答結果(複数回答)

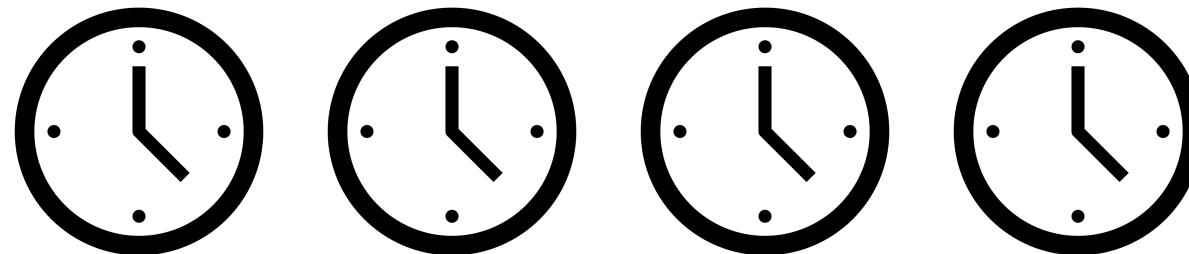
日本語学習の課題(上位4つ)

勉強するお金がない



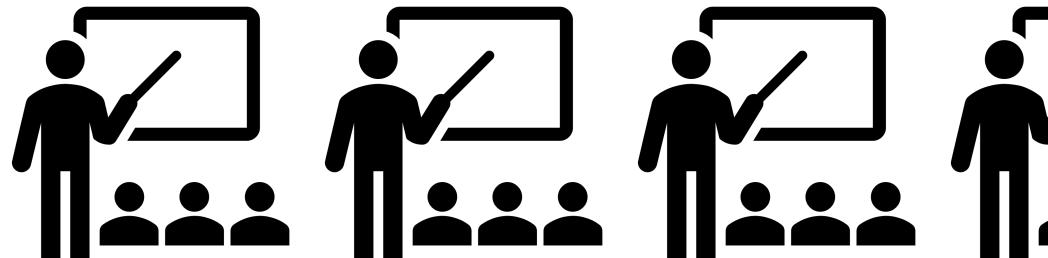
178

勉強する時間がない



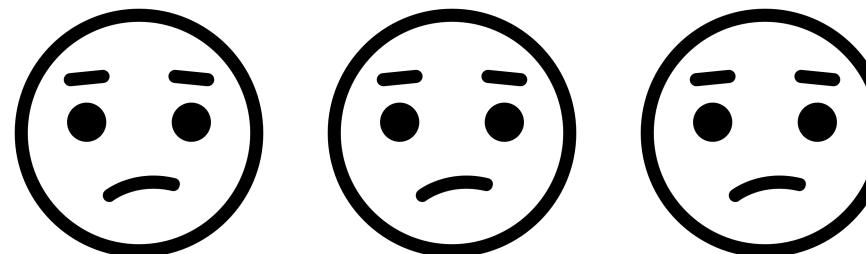
147

日本語の教室がない



128

日本語を話せても給料がふえない



107

日本語学習の問題は
「お金」
「時間」
「教室」
「モチベーション」
の4つ。

防災・避難行動の認知度

災害情報の所在、避難所について「よく知っている」人の割合

n=712

災害時の知りたい
情報の所在

25%

人吉市で大洪水を経験した。午前5時ごろの早朝に大雨が降ったので、何も知らず、とても驚いた。

避難所は外国人が
行ってもよいこと

22%

6年前の一番大きい熊本地震を経験した。何をすればいいのか分からなかった。教えてくれる人もいなかった。次の日に会社の人から避難所に連れて行ってくれた。すごく怖かった。

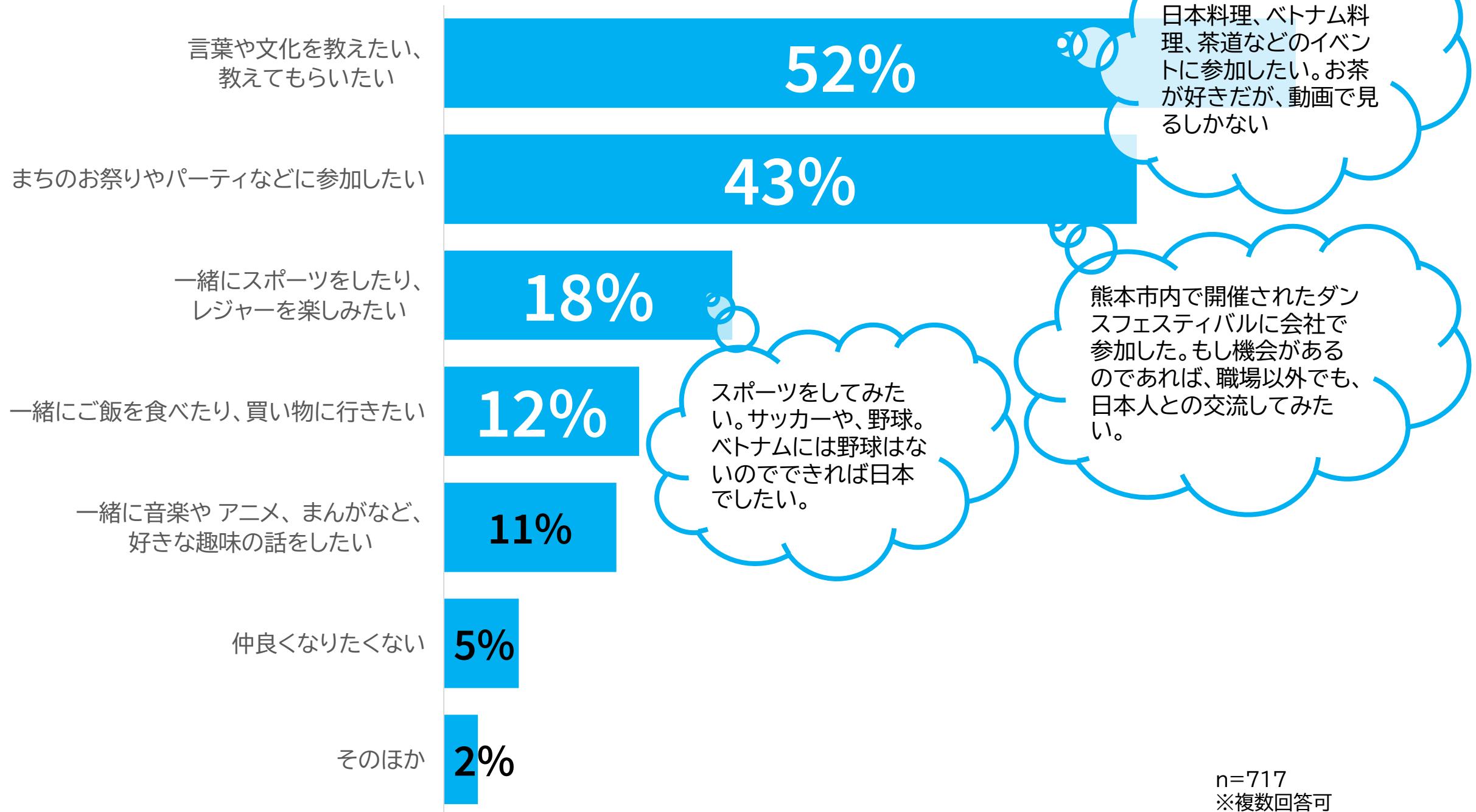
避難所の場所

20%

「災害のときには学校に行きなさい」と言われたが、それ以上は教えてもらっていない。避難所の場所も知らない。行政からの連絡は日本語なので、分からないことが多い。

地域共生活動の具体的ニーズ

日本人といっしょにしてみたいこと



n=717
※複数回答可